

災害派遣から戻った袋井署員に

福島からの「ありがたい」とうたう

福島県に災害派遣された袋井署飯田駐在所の千葉信介巡査部長(三十九)が、建物が被災しながらも精いっぱいもてなしてくれた宿泊先の旅館に礼状を送ったところ、返信が届いた。手紙には「修繕にかなりの費用がかかるということで、どうしようかと落ち込んでいた。おかげさまで元気になりました」と、思いがけない礼状への感謝が込められていた。

(袋井通信部・河野貴子)

静岡県警の一行が滞ろうという気持ちに「しげます」とつづら張らなきやいかんと思

在した郡山市のみずほなりました。今後ともれている。 旅館を夫と営む日野紀日本の、静岡の、福島 千葉巡査部長は四月 以前所属した機動隊 美子さん(五十九)からの返の人々のためにご活躍 中旬から一週間、みずの上司を見習い、帰任 事だった。「皆で『やされることをお祈り申 後の四月下旬に礼状と 郡山署管内でパトロー 新茶を送った。五月に ルに当たった。「まだ なって日野さんから地 物もない中で食事をい 元の菓子とともに手紙 っぱい出してくれた。 が届いた。

太って帰るんじゃない 日野さんは「修理に かつ思ったぐらい」。 一千万円ほどかかると 早朝にロビーで新聞を 言われ、商売を続ける 広げていると、ストー のは無理かしらと感じ ぶをつけてくれ「寒い いていた」と語る。地盤 ね」と言葉を交わし が十秒沈んで自慢の風 た。現地の人の思いや 呂場はひびが入り、下

日野さんからの手紙を読み返す 千葉巡査部長 袋井署で



宿泊の礼状に旅館が返信「元気になりました」

がやっとなってなくて、あつちこつち駆けずり回った」と食材確保の苦勞も振り返る。礼状を受け取り「感激して、しばらく事務所に張っていました」。

「よそから応援に来てくれ、お巡りさんたちを守られていることを感じた」と、警察官を頼もしく見ていた日野さん。静岡県警と同時期に泊まっていた岡山県警の一行は、旅館周辺の草取りをして帰って行ったという。

千葉巡査部長は「放射性物質の蓄積もあり、残って頑張るのがどれだけ大変か。機会があったら、またみずほ旅館を訪ねたい」と、手紙を手に東北の復興を祈る。

